

家庭教育力の強化を図る

楽しく参加できる持続可能なPTA活動を目指して

岩倉市立岩倉南小学校PTA

1 はじめに

本校は岩倉市の南部に位置し、校区は岩倉駅周辺の都市部と田畑や自然生態園などの豊かな自然環境から成る。明治6年に創立され、150年の歴史を誇る伝統ある学校である。学校規模は、児童数496名、学級数は22学級（通常学級17、特別支援学級5）、PTA会員数は381人である。『明るく 楽しく 元気な学校』を合言葉に、家庭や地域と連携し、教育活動を進めている。



【岩倉南小学校校舎】

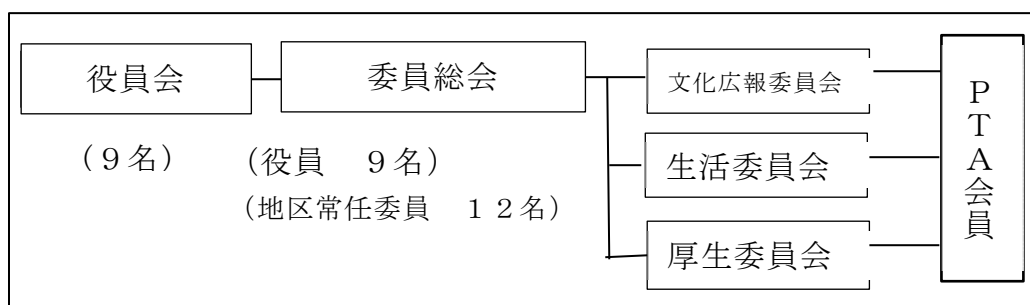
2 研究への取組

(1) PTA組織

本校のPTA役員会は役員9名で構成され、その内3名は教職員である。また、PTA委員総会は役員9名及び各地区の代表である地区常任委員12名で組織されている。

委員は、文化広報委員会、生活委員会、厚生委員会の3つの専門委員会にそれぞれ所属し、次のような活動を行っている。

- ・文化広報委員会…会員の研修活動とPTA新聞などによる広報活動
- ・生活委員会…校外における児童の安全を守る活動
- ・厚生委員会…保健面の活動、ベルマークの集計活動



【岩倉南小学校PTA組織図】

(2) 研究のねらい

コロナ禍により学校行事のみならず、PTA活動も多くが取組が中止、縮小されてきた。活動を再開するにあたり、なぜその活動が子どもたちに必要なのか、「子どもファースト」でPTA活動について再検討することとした。それに加えて、活動が持続可能かどうかという観

点も重要である。P T A活動が一部の役員の過度な負担となっていないかということも数年に渡り検討した上で改革を行った。

そこで、P T A活動を充実させることで子どもたちの健やかな育ちを支援したいというP T Aの思いを大切にしつつ、活動のスリム化と役員の負担軽減とを図るということを研究のねらいとして実践を行った。

3 実践の概要

(1) P T Aによる常時活動及び行事における活動

① 登校時のスクールガードの活動

登校時、交通量の多い交差点において、P T A会員が一人年2回(前期・後期)、交通安全の見守りを実施している。見守りは、それぞれの地区ごとに当番表を作成し、会員自身が子どもたちの交通安全の見守りを行っている。以前、当番から次の当番へ旗を順番に回していたが、旗がうまく引き継げないこともあったので、昨年度、腕章を全世帯分購入し、それを配付し子どもが卒業するまで使用するように変更したことで、スムーズにスクールガード活動ができるようになった。前期と後期の2回、地区常任委員が当番表を作成し、学校でそれを増刷りし、各家庭に配布している。

この活動は、登校時の子どもたちの安全を見守るというだけでなく、P T Aスクールガードの方との朝の挨拶は、子どもたちと地域とのつながりを強めるということにも一役買っている。また、一部の役員だけでなく、全家庭にスクールガードの活動をお願いすることで、各家庭における「地域の子どもは、地域で育てる」という意識が高まり、家庭教育力を高めるという効果も期待できる。

② 運動会と南っ子フェスタ

秋の運動会では、P T A役員が当日の駐輪場の自転車整理と運動会終了後のテントの片付けなどを手伝っている。自転車整理については、役員の負担がないように、子どもの出番がない時間帯で活動してもらっている。運動会後の片付けについては、P T A役員が率先して片付けを行うことで、一部の他の保護者も手を貸してくれ、よい雰囲気ですmoothに作業が進められている。

また、毎年1月中旬の土曜日の午後に南っ子フェスタを開催している。この行事では、役員と3つの委員会がそれぞれ1つずつのブースを担当し、子どもと親が楽しめるイベントを企画、運営している。例年、輪投げ、射的、釣り、バルーンアートのブースを子どもや親が1回50円



【南っ子フェスタの様子】

で楽しんでいる。このイベントへの参加は任意だが、約8割の子どもが参加している。過去にはリサイクルコーナーや喫茶コーナーもあったが、PTA役員・委員の負担を考慮し廃止した。

(2) PTA専門委員会による活動

① 「とまれ」などの立て看板の設置

生活委員会の取組として、校区に3種類の立看板を設置している。交差点の「とまれ」、川や用水路などの「きけん」、人通りの少ない危険な道路の「ちかん」の3種類である。これまで、木の板に枠を当ててスプレーで色付けをする手作業で看板を作成していた。しかし、耐久性が悪く、補修作業や取替作業の手間がかかるので、今年度から業者に3種類の立て看板の作成を依頼し、この看板を使用することとなった。業者にデザインを依頼したことで、大変見やすい立て看板ができた。また、樹脂製の看板に変更となったことで、耐久性もよくなり、交換を頻繁に行う必要もなくなった。来年度以降も、少量ずつ立て看板を購入することで、順番に新しい看板への交換作業を進めていきたい。



【地域に設置している立看板】

② ベルマーク整理

子どもたちの委員会活動として、ベルマーク委員会で年3回、回収日を設定しベルマークを収集している。また、市内の地域交流センターやスーパーマーケットなどにもベルマーク回収箱を置かせてもらい、収集に努めている。集まったベルマークは厚生委員会が集計をし、発送作業をしている。集まったベルマークでこれまで、一輪車や黒板消しクリーナーなどを購入し、子どもたちの学校生活に役立てている。また、インクカートリッジも回収しており、ベルマーク収集の一助となっている。さらに、ベルマークの集計作業やインクカートリッジの整理は、できるだけ委員総会が開催される日に作業を行うことで、作業のためにわざわざ来校する回数を減らすようにしている。

③ PTA教育講演会

これまでは、PTA文化講演会として、講師の選定から講演会の運営まで文化広報委員会が行っていた。しかし、文化広報委員の負担が大きいことから、この取組の縮小化を図り、就学時健康診断の際に行う新入児の保護者向け講演会と文化講演会を一本化することとした。これまで



【講師と委員との懇談の様子】

と同様、就学時健康診断の際の講演会については、学校が日程調整や講師の選定を行い、当日の受付や進行役を文化広報委員の方々にお願いしている。また、講演会后に講師と委員が歓談する時間を取ることで、委員にとって子育てや教育について考えるよい機会となっている。今年度も、子どもの誕生と成長をテーマにして写真を撮っているバースフォトグラファーの方を講師としてお招きし、講演会后、委員と子育てについて語り、有意義な時間となった。

④ P T A新聞の発行

文化広報委員が中心となって、紙面構成、印刷業者への発注を行っている。年間3回発行していたものを、3学期末1回の発行に減らした。各学年の1年間の振り返りと卒業生の紹介が主な内容である。

(3) P T A活動のスリム化及び役員の負担軽減

これまで、持続可能なP T A活動を目指して、P T A活動のスリム化及び役員の負担軽減のための改革を行ってきた。P T A活動のスリム化については、地域に働きかける必要のある資源回収とバザーを廃止した。資源回収では回覧板やポスターを作成したり、回収場所の使用許可を取ったりなど、煩雑な仕事内容をP T A役員にお願いしていた。資源回収を廃止したことにより、委員総会の開催を1回減らすこともできた。バザーでは地元業者に出品の依頼をしたり、地域に回覧板やポスターで開催案内とリサイクル品の回収をお願いしたりしてした。資源回収やバザーは、学校の準備・協力も相当なエネルギーを使っていたので、P T Aや地域の理解もあって廃止することができた。

また、役員の負担軽減のためのP T A組織のスリム化も同時に進めた。これまで20名いた地区常任委員の数を12名に減らした。さらに、地区ごとの児童数及び長子数から役員の選出割り当て回数を決め、選出ローテーション表を作成した。この際、公平性の観点より、児童数の少ない地区は思い切って役員の選出を免除することとした。

4 おわりに

これまで、子どもたちのためにP T Aという組織がどうあるべきかを中心に考えながら、さまざまな改革を行ってきた。P T A活動のスリム化や役員の負担軽減は、持続可能という点では高評価であったものの、果たして本当に子どもたちのためになっているのかという点とまだまだ疑問の余地が残る。今後さらに活動内容やよりよい取組方法を検討していくことが重要である。

また、今年度から始まったコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の存在もP T A活動の見直しをする絶好の機会であると捉えている。保護者や地域の方がボランティアとして、学校のさまざまな場面に関わるようになり、P T Aにしかできない活動は何か、これからのP T Aの在り方について今後もさらに時間をかけて検討していくことで、学校とP T Aとがさらに連携を深めて、魅力ある学校づくりを進めていこうと考えている。